

草勢強く、うどんこ病に強い、きめ細かな粉質で食味良く、
貯蔵輸送性が高い、ハート型の大果種

ケント

特性と栽培方法



第1図 標準作型

地域	月	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
九州 (西南暖地)	播種	○											
	定植		☉										
関東 西海 関東平 関東平	播種		○										
	定植			☉									
高冷地 東北 北海道	播種				○								
	定植					☉							

○播種 ☉定植 ●交配 ○収穫

ケント

〈特性と栽培方法〉

育成経過

従来の黒皮へん平型品種とは区別性のある、加工用・業務用カット販売等にも利用しやすい大型・豊産性・高品質を目標にして育成した品種で、1993年に命名発表した。育成素材としては、栃木県在来種から選抜した大型できめの細かな強粉質の系統と、えびす×みやこの固定系を使い、育成した。

品種特性

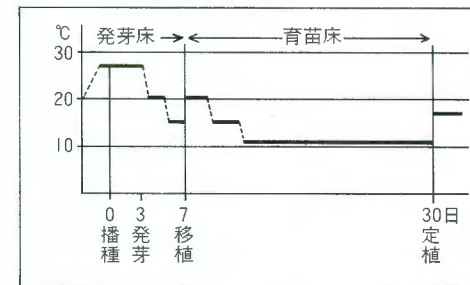
- 果実はハート型の大果(2.5~3.5kg)で、貯蔵輸送性が高い。
- 果皮は黒緑色で、斑・ストライプは無く滑らかでつやがある。
- 果肉は黄色で厚く、きめの細かな粉質である。
- 草勢は極めて強く、大葉で葉柄・節間は長く、茎は太い。
- うどんこ病に強く、生育は後半までおう盛で2番果の品質もよい。
- 吸肥力が強いので元肥は少なめにし、追肥で調節する。
- 低節位に着果させると果形が崩れ肥大も悪いので、品種特性を生かすには20節前後に1果着果させて大玉にする。
- 収穫適期は開花後50~55日である。

栽培の要点

- 播種 発芽床は過湿にならないように注意する。覆土は1cmくらいで、強めに鎮圧する。発芽適温は25~28℃、発芽したら20℃とし、翌日さらに15℃にする。(第2図参照)
- 育苗・定植 播種後7~8日目にポット(12cm)に鉢上げする。育苗床はあらかじめ用意し、散水して床温を20℃くらいに上げておく。2~3日で活着したら地温は夜10~12℃、気温は昼18~20℃、夜8~10℃を目標に管理する。
育苗中の高温多湿は雌花の着生を少なくし苗の質を悪くするので、上記のような低温で管理し、灌水も控え目にして硬い苗を作る。育苗日数は30日前後がよい。
定植は、深さ20cmの地温が最低15~18℃に上昇するのを待って行う。
- 標準施肥量(成分kg/10a)

N8~12kg	
	P15~20kg
	K10~15kg
	Ca50~60kg
	完熟堆肥2t
- 栽培本数 大葉で葉柄・節間が長いので、下記を基準とする。(10a当たり)

1本仕立て	畦間 3.0m	株間 45cm	740株
2本仕立て	畦間 3.0m	株間 90cm	370株
- 整枝 側枝は初期から強く発生し過繁茂になりやすいので、1番果が着果するまではいいねいに随時摘除する。着果後は放任でよい。
- 着果 1番果は1蔓1果とする。低節位に着けると大きくならず特性が生かされないので、草勢の強い株でも18~20節に着果させる。
草勢が生育後半まで衰えないので、2番果以降も果形は良く揃い、粗放栽培でも特性を発揮する。
- 収穫 栽培時期によって異なるが、開花後50日が標準で、早い栽培では55日は必要である。また、過熱になっても品質の低下は少ない。
収穫後の日持ちが良く、貯蔵輸送性に富む。
- 病害虫対策 うどんこ病に強い。従来品種と比べて発病時期が遅く病状も軽いので、通常1番果の収穫時期まで防除の必要はないが、病状が進み被害が予想されたり、2番果まで収穫する場合には、防除が必要となる。しかし、うどんこ病に対する防除回数は、従来品種に比べて半減できる。
えき病やアブラムシ等の病害虫の予防・防除は、他品種と同様の対応が必要である。



第2図 発芽床と育苗床の床温管理(夜間最低床温)

公益財団法人 園芸植物育種研究所

〒270-2221 千葉県松戸市紙敷 2-5-1 (2012年10月1日法人名変更)